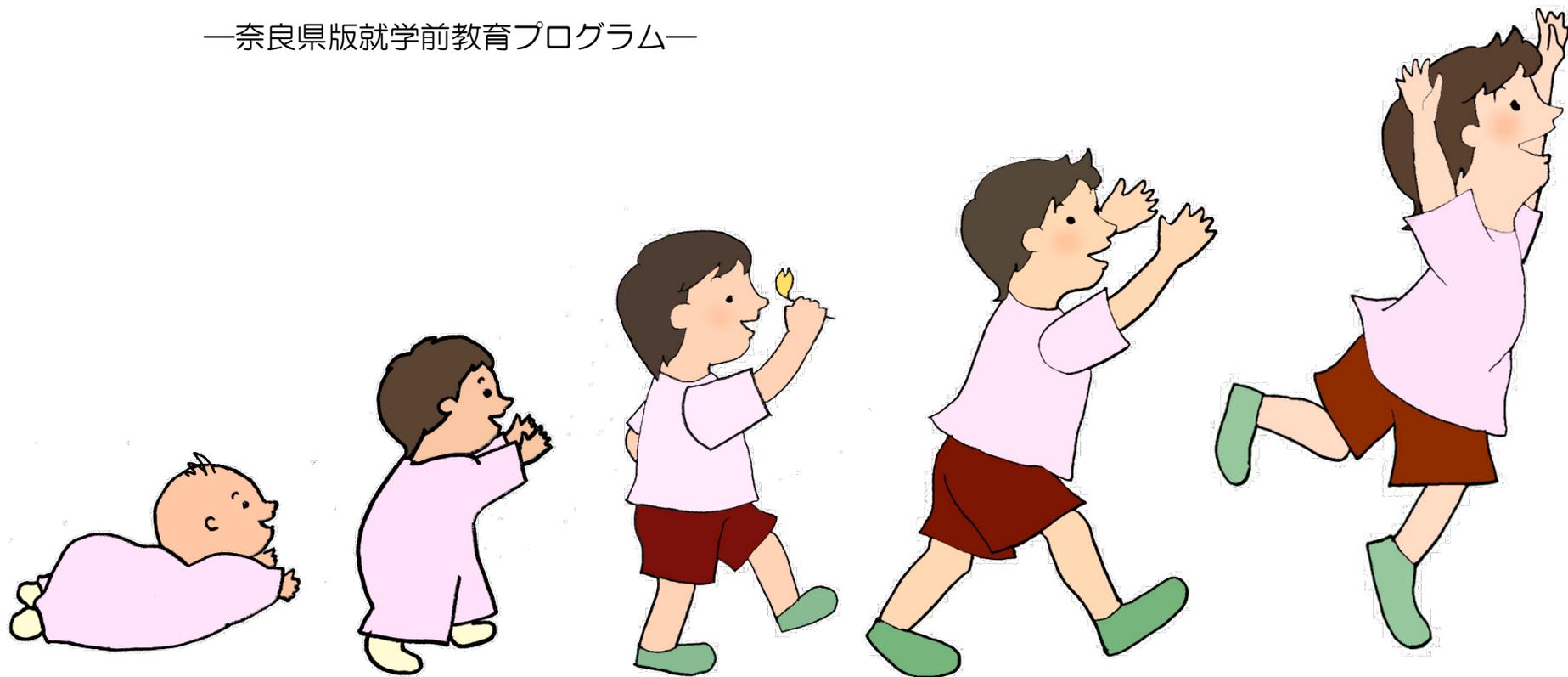


ははた^{BB}くなら

—奈良県版就学前教育プログラム—



—奈良県・奈良県教育委員会—

奈良県・奈良県教育委員会では、このたび、平成29年度に作成された「奈良県版就学前教育プログラム」を基に、本県の教育課題を踏まえ、子どもの発達のとそれに伴った教育課題の解決に向けた関わり方を示した改訂版プログラム「はばたくなら」を作成しました。

奈良県の就学前の子どもたちを健やかに育てるために、どのように教育・保育を進めるのかを確認できるようにしています。また、家庭や小学校との連携の際の参考にもしていただけるよう、子ども理解や遊びの中での子どもとの関わり方を中心にまとめています。

本県の就学前教育に関わる人々が本プログラムを奈良県の就学前教育の基本とし、日々の教育・保育の参考にできるようにまとめています。子ども理解を深めるためのワークシートや日々の記録、研修の際の教材等として活用し、自身の実践を書き込んだり、部分を取り上げたりして身近に置いて活用していただければ幸いです。

就学前教育に関わるすべての人々が、子どもたちが未来へ羽ばたく姿を共に描きながら、子どもたちの今を語り合うために「はばたくなら」を活用いただくことを願っています。

子ども理解を深める	I 奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯	1
	・奈良県の教育課題との関連について	2
	・「奈良県版就学前教育プログラム」について	3
	・「はばたくなら ～奈良県版就学前教育プログラム～」における援助の重点	4
	II 子どもの発達と教育内容	5
	・子どもの発達	6
	・子どもとの関わり	6
	・教育の「3つの視点」と「5領域」	7
	・子どもの発達に合わせた援助	8
	III 子どもの発達と遊びの姿 ～環境の構成と幼児への関わりを深める～	10
・～自尊感情（豊かな感性と表現等）～	11	
・～規範意識（道徳性・規範意識の芽生え等）～	19	
・～学習意欲（思考力の芽生え等）～	27	
研修を深める	IV 研修の展開例及び研修資料 ～実践から評価・改善へ～	37
	・就学前教育に係る研修資料 ～実践事例から深める～	38
	・研修資料及び展開例	40
	V 明日の“楽しい保育”につながる保育記録の工夫	45
・奈良教育大学附属幼稚園の研究～「子どもたちの未来につながる“楽しい保育”の追及」から～	46	
小学校につなぐ	VI 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ～幼小接続推進力～	55
	・小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と接続期の実践事例	56
	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の発達過程	58

I 奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯

本県における就学前教育の充実に対する認識の前提には、学齢期における指標となる「全国学力・学習状況調査」等において、意識に関わる「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」等に関連する項目の本県児童生徒の平均値は依然として全国平均に比べ低く、課題が見られることがあります。

これらの意識等の醸成を本県の子どもの教育課題と捉え、その解決のためには就学前からの教育の充実が必要であると考えました。そこで、これらの意識などの醸成につながる、幼児期における効果的な取組を検討し、本県の教育課題に即した「奈良県版就学前教育プログラム」として整理しました。

このたび、平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を踏まえ、さらに「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」といった意識の醸成を支える取組を、子どもの発達段階に即して具体的に示した奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を作成しました。

奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯

奈良県の教育課題との関連について

幼稚園教育要領には、「一般に、幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期であることが知られている。」と示されています。この時期に何を体験し、どのような内容に取り組むかは、発達段階やこれまでに経験してきたこと、地域性等を考慮し、目の前の子どもに合わせて計画されるべきものです。

就学前教育・保育を行う場は、幼稚園、認定こども園、保育所など多様化しています。その教育・保育の基となる要領・指針は、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」と施設によって異なっています。また、前述の施設に在籍せず、就学前の期間を家庭で過ごす子どももいます。

就学前の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。そこで、県内のすべての子どもたちが、在籍する施設等に関わらず、質の高い教育・保育が受けられるよう、共通する指針として、平成29年度に作成された「奈良県版就学前教育プログラム」を基に子どもの発達段階やそれに応じた関わり方等をまとめ、「はばたくなら」を作成しました。

右表は、平成30年度全国学力・学習状況調査の自尊心、規範意識、学習意欲に関連する項目の本県児

童生徒の平均値をまとめたものです。依然として、本県児童生徒の平均値は全国平均に比べ低く、課題が見られます。

課題	自尊心		規範意識		学習意欲	
関連項目	自分にはよいところがある		学校の決まり（規則）を守っているか		算数・数学の勉強は好きですか	
校種	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
奈良県	82.6%	75.4%	86.5%	93.8%	60.2%	49.9%
全国	84.0%	78.8%	89.5%	95.1%	64.0%	53.9%
差	-1.4	-3.4	-3.0	-1.3	-3.8	-4.0

(平成30年度全国学力・学習状況調査結果から)

こうした本県の課題の解決に向け、幼児期から継続して取り組むことができるよう、「自尊心」「規範意識」「学習意欲」の向上の視点からプログラムを作成しています。特に、乳児期からの発達の見通しを示すとともに、子ども一人一人が自分のよさを認め、友達と関わりながら主体的に学習に取り組むことができる援助の方法等を示しています。

また、子どもの発達には、家庭との協力が不可欠であることから、家庭と連携する際の参考となるよう、遊びの中での子どもとの関わり方や家庭での関わりのポイントなどを例示しています。

「奈良県版就学前教育プログラム」について

「奈良県版就学前教育プログラム」は、平成27年度から奈良県と共同研究を行ってきた京都大学の研究チームが、アメリカのハイスコープ就学前教育カリキュラムの研究から取りまとめた概要より「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」等の視点に該当する指導方法を参考として作成しています。「はばたくなら」においても、この指導方法を踏まえ、特に大切にしたい援助の在り方をまとめています。

ハイスコープ就学前教育カリキュラムの共通する指導方法

ー保育者は、子どもの主体的な活動、自主性の発達を支援するための足場づくり（環境づくり）をする存在ー

- ①日々の遊びは、子どもが主体。子どもの興味・関心にしたがい、「計画→実行→評価→振り返り」のサイクルを取り入れ、子どもの主体的な学びの能力を養っていく。
- ②日常の活動の中に、保育者主導、子ども主導、多人数グループ活動、少人数グループ活動の時間を取り入れる。
- ③保育者による一方的な「教え込み」ではなく、保育者と子どもを対等な関係として位置付けた相互交流が求められる。
- ④学習スペースとして、「家庭エリア」・「芸術エリア」・「ブロック遊びエリア」・「小さなおもちゃエリア」・「コンピュータエリア」・「読み書きエリア」を区分して用意し、活動目標ごとに利用する。
- ⑤子どもの様子を的確に把握し、状況に応じた働きかけをするように努める。
- ⑥子どもに自らの行為の意味や価値を認識させるため、適切に話しかけ、子どもの行為についてコメントする。
- ⑦子どもの発達により、もう一段階先に進めそうなときには、適切なタイミングで新たな課題を提示する。（「教え込み」ではなく「さりげなく」）

「自尊感情」の指導方法

- ①子どもの能力と発達レベルに合わせて、自助スキルの向上を促進する
- ②子どもが次の段階に進めそうなときは乗り越えられる次のレベルを提示する
- ③子どもの主体的な選択と実行をサポートする
- ④子どもの努力と成し遂げたことを認識させる
- ⑤子どもにリーダーになる機会を与える

「規範意識」の指導方法

- ①保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる
- ②道徳的な問題をシンプルな結果と原因に結び付けて状況を説明する
- ③子どもに道徳的行動について気付かせる
- ④家庭と幼稚園（こども園・保育所）との間に一貫性をもたせるために、保護者を巻き込む

「学習意欲」の指導方法

- ①できたことではなく努力に着目する
- ②子どもが新しいことに挑戦したときに肯定する
- ③子どもが不安なく活動するために、学習環境が安全であると知らせる
- ④保育者主導の活動時にも子どもの自主性を奨励する
- ⑤日常の時間において、計画を立てる時間をいつも設定する
- ⑥一日の活動全体を通して子どもが意図的に選択できる機会をつくる
- ⑦子どもの選択や決定に保育者が興味を示す

「はばたくなら ～奈良県版就学前教育プログラム～」における援助の重点

ハイスコープ就学前教育カリキュラムの指導方法を踏まえ、本県の就学前教育において、特に大切にしたい援助の在り方を示します。幼児期の教育・保育は、「環境」を通して行います。「環境」とは、何を与えるか、といった物質的、空間的なものだけでなく時間や社会的背景も含まれます。中でも最も重要な環境は、教員や保育士等の「保育者」であり、その援助の在り方を考えることが教育・保育の質を高めることにつながります。

改訂版就学前教育プログラム「はばたくなら」においてもこの指導方法を踏まえ、特に大切にしたい援助の在り方をまとめています。

1 「自尊感情」を育む援助

- (1) 子ども自らが考え選択したことを認め、試したり行動したりする姿を支える
- (2) 子どもの発達段階を見極め、次の段階に進めそうなときは、少しがんばれば乗り越えられそうな課題を提示する
- (3) 子どもが自分の力でがんばったことと、その結果成し遂げたことを認識できるようにする



自尊感情は「自己の能力への自信」、つまり「やればできる」という自信です。子どもが新しいことに挑戦するときや問題解決に向かおうとするときが最も重要なタイミングです。そのときに必要となるのが大人の働きかけです。

2 「規範意識」を育む援助

- (1) 保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる
- (2) 道徳的な事象について、簡単な結果とその原因を結びつけて状況を説明する
- (3) 日常にある道徳的な行動を取り上げ、子ども自身が意識できるようにする



基本的な道徳性の発達においては、原因と結果を認識させることが極めて重要です。例えば、「もし本のページを破り取ったら（＝原因）、クラスの誰も本を読めなくなる（＝結果）」という流れです。また、幼児期には、行動の裏にある“意図”に気付けるかどうかも重要です。

3 「学習意欲」を育む援助

- (1) 「できた」という結果ではなく、努力した過程に着目する
- (2) 活動の見通しをもたせ、やるべきことややりたいことを自分なりに考え、計画できるようにする
- (3) 子どもが選択や決定ができる機会を意図的につくり、その選択や決定に保育者が興味を示す



興味あることや自分の役に立つことは、自ら学ぶ意欲につながります。意欲的になるにつれて、子どもは自ら選択や決定を行い、思いを強め、目的をもって計画を立てるようになります。そのような活動を支える姿勢が大切です。

Ⅱ 子どもの発達と教育内容

本県の教育課題の解決に向けた就学前教育の取組を0～5歳という発達段階に依りて考えるため、平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を踏まえて、子どもの発達とそれに依りた保育の援助及び各年齢ごとの教育内容を示しました。

教育を行う際には、子どもの発達を理解し、個に依りた関わりによって発達を促すとともに、発達を見通すことも重要です。子どもが今見せる姿を受け止め、これから育ててほしい姿を描く、「幼児理解力」が必要です。また、就学前教育の中で大切にしたいことは、教育を構成する、環境、人やものとの関わり、教育内容、保育者の援助を総合的に考え、展開する「保育構想力」です。

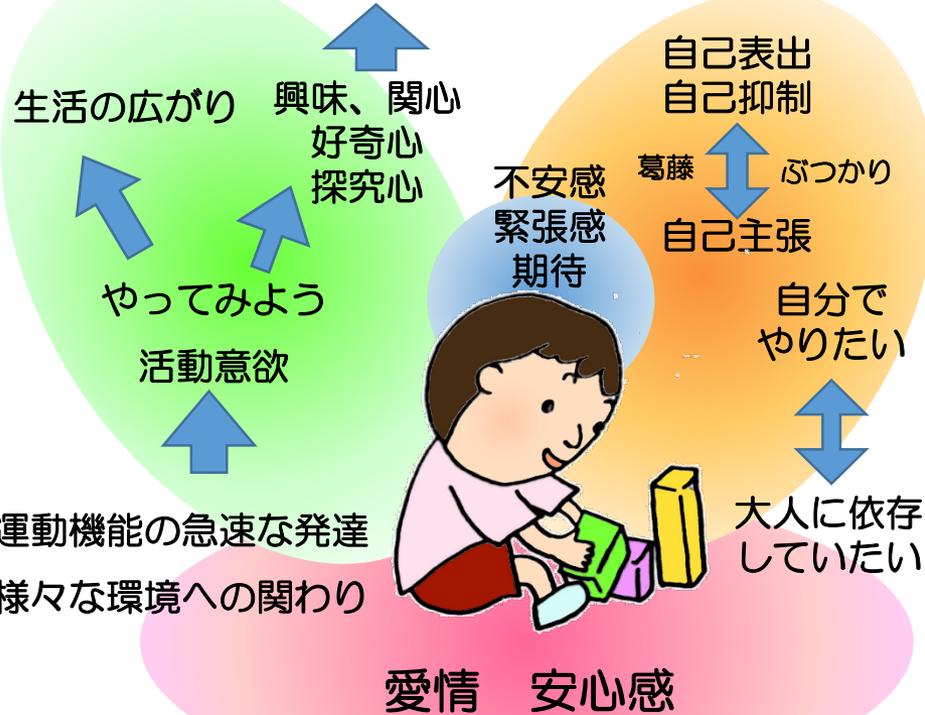
これらの基になる子どもの発達や援助の方法について本章で示し、本県の教育課題解決に向けた具体的実践をⅢ章で紹介します。

子どもの発達と教育内容

子どもの発達

乳幼児期の子どもは、保護者や特定の大人との親しい人間関係を軸にして営まれる生活から、より広い世界に目を向け始めます。そして、生活の場、他者との関係、興味や関心などが広がり、依存から自立に向け成長していきます。子どもの特性に合わせ、子どもにとってふさわしい生活を考えたいきましょう。

思考力の基礎

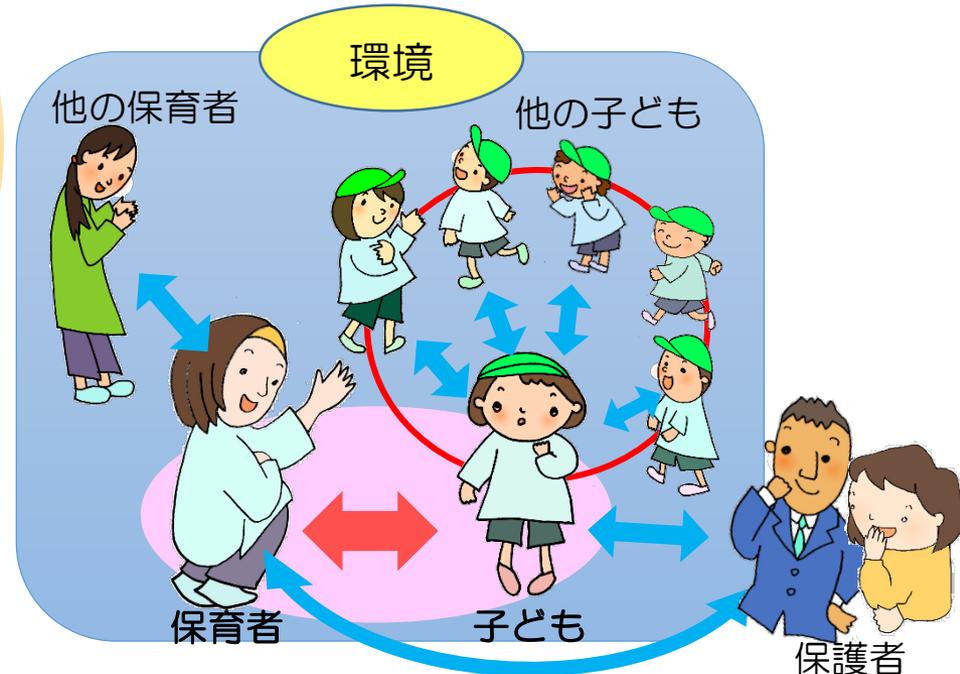


子どもとの関わり

下図は、一人の子どもを中心に、周りで関わる人の相関イメージです。（平成29年度就学前教育研究調査事業京都大学報告のイメージ図から）

子どもの発育・発達は、子ども同士の関わりを主としながら多くの人と関わることで促されます。

本プログラムでは、子どもの活動に対する見守り、援助としての保育者から子どもへの声かけを中心に、環境づくり、子ども同士の関わりや家庭、地域での関わりも含めて、活動の場面に応じて示しています。



教育の「3つの視点」と「5領域」

幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針では、乳児期、1、2歳、3歳以上の3つの発達の段階での教育・保育に関するねらいや内容が示されています。乳児期の子どもには3つの視点が、1歳～3歳及び3歳以上の子どもには5つの領域からねらいが示されており、以下はそれらをまとめたものです。3歳以上は幼稚園教育要領とも同じです。

3つの視点

5領域

<p>健やかに伸び伸びと育つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる ・伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする ・食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える 	<p>健康</p>	
<p>身近な人と気持ちが通じ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる ・体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする ・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ ・自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする ・健康、安全な生活に必要な習慣に気付く、自分でしてみようとする気持ちが育つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう ・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する
<p>身近なものとの関わり感性が育つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する 	<p>人間関係</p>	
<p>身近なものと関わり感性が育つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・園・所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる ・周囲の友達等への興味・関心が高まり、関わりをもととうとする ・園・所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・園・所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう ・身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ ・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける
<p>身近なものとの関わり感性が育つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する 	<p>環境</p>	
<p>0歳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ ・様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする ・見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする ・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする
<p>1歳</p>	<p>言葉</p>	
<p>2歳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる ・人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする ・絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通して身近な人と気持ちを通わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう ・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育者や友達と心を通わせる
<p>3歳</p>	<p>表現</p>	
<p>4歳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう ・感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする ・生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
<p>5歳</p>		

子どもの発達に合わせた援助

子どもの発達する姿を通して、子どもに育みたい資質・能力が身に付くためにはどのような援助が大切なのかを示しています。また、家庭と共に発達を支えられるよう、家庭での関わりのポイントを合わせて示しています。

発達の姿

- ・首がすわり、手足の動き、座る、はうなどの運動能力や聴覚視覚が発達し、探索行動が活発になる。
- ・喃語で自分の欲求を表現する。
- ・離乳食が始まる。

- ・一人歩きができるようになり、行動範囲が広がる。
- ・指先の機能が発達する。
- ・友達と同じことをしたり、物を奪い合ったりして他の子どもとの関わりが増える。
- ・一語文を話す。
- ・自我が育ち、思い通りにならないと癇癪を起こすなどの様子が見られる。
- ・想像して見立てて遊ぶようになる。

- ・基本的な生活習慣がある程度身に付く。
- ・走る・跳ぶなどの基本的な動作が一通りできるようになる。
- ・語彙が急激に増加し、「なぜ」「どうして」と盛んに質問する。
- ・一人遊びを楽しむ。
- ・大人の行動や日常の経験を取り入れ再現して遊ぶ。

0歳

1歳

2歳

3歳

この時期に必要な援助

- ・乳児が心地よい生活が送れるように、愛情豊かに行動や、欲求に応える。
- ・安全が保障され、安心して過ごせる環境をつくる。



- ・子どもの生活のリズムを整えながら、自分でしようとする気持ちを受け止める。
- ・温かいまなざしで見守り、支える。
- ・子どもの表情や言葉に対して、愛情を込めて応える。



- ・基本的な生活習慣など、自分でできた喜びを味わえるようにする。
- ・子どもの様子を注意深く観察し、話をしっかりと聞く。
- ・子どもがうまく言い表せない時は、思いや感じたことを言語化する。
- ・友達と一緒にすることの楽しさや子どもの思いに寄り添い共感する。

家庭での関わりのポイント

大人の笑顔と語りかけに安心感を抱きます。子どもの表情や仕草を、笑顔や言葉で優しく受け止めましょう。

大人の行動をモデルとしながら、自分でしようとする気持ちを育てましょう。

行動範囲を家庭から広げ、地域の環境との関わりの中で、様々な経験ができるようにしましょう。

自分でしようとする気持ちを大切にしながら、食事や排泄の仕方を身に付けられるようにしましょう。

- 基本的な運動能力が育つ。
- 身近な自然環境に興味を示し、積極的に関わる。
- 自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。
- 自己を十分に発揮することや、他者と協調して生活することを学び始める。
- 決まりの大切さに気付き、守ろうとするようになる。
- 気の合う友達とイメージを共有しながら想像して遊ぶ。

4歳

- 生活に必要な行動を一人で行う。
- 一日の生活の流れを見通すことができる。
- 自ら活発に体を動かして遊ぶ。
- 言葉による伝達や対話する能力が身に付く。
- 友達の考えを取り入れながら、自分なりに考えたり納得のいく理由で物事を判断したりする。
- 集団での活動が高まる。(決まりを守る、役割を果たす)
- 社会生活に必要な力を身に付ける。
- 友達と遊びの中で、共通のイメージをもち、試行錯誤しながら遊びを進める。

5歳

- 全身運動がなめらかになり、様々な運動に意欲的に挑戦する。
- 自立心が高まる。
- 自分から様々なことに興味や関心を示し、意欲的に環境に関わる。
- 自分の主張を通すだけでなく、仲間と協調しようとする。
- 思考力や認識力が高まり、自然現象、社会現象、文字、数等への興味や関心が深まる。
- 知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、協同的な遊びを進める。

幼児期の終わり

- 子どもが助けを求めてきたときは、いつでも援助できるように見守る。
- 子どもの努力を認め、自信がもてるような言葉かけをする。
- イメージが実現できるような、幅広い材料・素材を準備しておき、必要に応じて提供する。



- 子どもの遊びの過程を認め、自信がもてるようにする。
- 自分たちで進めたり解決したりしている様子を見守り、充実感や満足感がもてるような言葉かけや援助をする。



- 子どもの努力を認め、自信や自覚がもてるような言葉かけをする。
- 集団としての充実感や満足感が味わえるような言葉かけをする。



様々な体験を通して社会性が高まります。子どもの話に耳を傾け、じっくりと聞きましょう。

子どもが夢中になっていることを認め、家族も関心を示し、共有しましょう。

小学校での具体的な生活や様子を知り、親子で就学への期待を膨らませましょう。就学後の安心感と学ぶ意欲につながります。

Ⅲ 子どもの発達と遊びの姿 ～環境の構成と幼児への関わりを深める～

本章では、本県の教育課題である「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」の醸成に向けた教育・保育実践を、発達の段階に沿ってまとめています。

「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」などは、「非認知能力」「社会情緒的スキル」と呼ばれる力です。測ることのできる「認知能力」とは異なり見えにくい力ですが、大切な「心の力」です。

こうした力を育てるため、就学前教育の基本である「遊び」の中で適切な援助を行う際の参考にさせていただきたいと考えています。

～自尊感情（豊かな感性と表現等）～

「自尊感情」とは、「自分が好き」「自分を大切に思える気持ち」です。自尊感情が醸成されていることで、自分をきちんと評価し受け入れることができたり、自分の意見を言い、自己決定ができたりする姿につながります。

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」に示される「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、特に「自立心」や「豊かな感性と表現」などと関連するものであり、それらの内容を踏まえた教育・保育実践をまとめています。



子どもの発達と遊びの姿 ～自尊感情（豊かな感性と表現等）～

事例A-1

保育者の援助の下、素材の動きの変化や面白さを感じ取り、「もう一回もう一回」と繰り返し遊ぼうとする気持ちを受け止めています。

ビリビリ、楽しいね。
もう一回しようね。

ふわふわー。

もっともっと。

ビリビリ
ぐちゃぐちゃ
おもしろい。



0歳

事例A-2

保育所等で、子どもたちは多くの「はじめて」を経験します。その中で子どものつぶやきや行動の様子から、感じたことややってみたいと思う気持ちを捉え、今後生まれる学びも想定しながら、丁寧に関わることが大切です。

「カブトムシ」だよ。
何してるのかな。

動いてる。

脚が見えた。

ムシや！



1歳

2歳